

古高取を伝える会会報

直方の高取焼



目次	
古高取の魅力伝える	2
古高取の広場	3
活動の記録	5
なんでも掲示板	6

集中豪雨、冷夏、そして熱い夏が終わ
り吹く風さわやかな季節となりました。
『古高取を伝える会』も二年目に入り
半年が過ぎました。
走りすぎず各部会の年間スケジュ
ールに基づいて活動し、設立の目的実現
に向かって一歩ずつ進んでいきたいと
思います。

皆様『直方の宝』はと問われたら
何とお答えになりますか。

遠賀川、福智山、花公園・・・。

焼物部会では市内十一校の小学校六
年生に焼物教室を開いています。

『直方の宝』は『高取焼』と答える子
供達が育ちつつあります。

四〇〇年前日本が戦乱期から安定期
に向かう時代の流れの中、福智山麓が
多く陶工の集まる「陶芸村」で栄えたこ
とを発掘品や修復写真・文献等で学習
し、マイ茶碗作りをします。

★子供達は目を輝かせます。

殺伐としたこの時代郷土の歴史をひ
もとき想像をふくらませながら、子供
達と時間を共有できることは楽しくて
とてもうれしい事です。

秋には、会員参加の焼物教室、もみじ
ウォーキングと楽しい行事を計画して
います。

多くの皆様の参加をお待ちしています。

『発掘検証が面白い古高取』
理事 小山 亘

窯跡から掘り出された陶片。その陶片には焼き上がるまでのそれぞれの物語が秘められている。

焼きものは一焼・二土・三細工というが、結局は焼きが一番難しい。焼きものは窯焚きというぐらゐ窯を上手にむらなく焼くのが名人たる所以である。

また窯はどんな窯でも一人しか窯の焚き止めが出来ない。この人物がここでいう窯焚きである。

高取発祥の宅間窯は、初期のころにはかなりの経験者が窯を焚いていたといえるが、後期になると初期の頃とは異なる窯焚きが行われ、出土品からもその未熟さがはっきりと見えてくる。

それに比べて内ヶ磯窯は開窯当初から終焉まで一人の腕利きの陶工が窯焚きの指揮を執っていたことがわかる。

さらに内ヶ磯窯は燃料の薪の灰かぶりの窯変を意識している窯詰



内ヶ磯窯の初窯で焼かれた織部好み

により宅間窯とはかなり異なった方法で焼いている。

内ヶ磯窯の次に開かれる白旗山窯も、宅間窯と同様で、窯変を意識した茶陶を焼く内ヶ磯窯の窯焚きとは異なる窯焚きが行われている。

宅間窯では最初の窯焚きは、十分な経験を持つ人物が行っていたのに対し、終わりの頃の窯焚きは経験が浅い別の人物が行っていたことが出土品から見えてくる。

しかし内ヶ磯窯の場合は灰かぶりを意識した者がその軸であるた

め、備前焼のような灰かぶりを焼いていた窯焚きが指揮を執っていたと考えられ、明らかに日本人陶工であることがいえる。

また窯焚きは窯造りでもある。宅間窯も内ヶ磯窯も土・礫・石などで窯を造っている。そのため初

めて窯に千度以上の温度を加えると窯素材の中に含まれた酸化鉄の塊が溶けて流れ落ち、作品に融着する。昔の陶工はこれを『窯糞』と呼び、特に初窯で壁から溶け落

ち作品に融着する『窯糞』を『初窯土産』と言っている。内ヶ磯窯

跡出土の「織部好み」には、この『初窯土産』が融着した出土品が多い。

このことから「織部好み」が初窯で大量に焼かれていたことがわかる。

この状況の検証をさらに進めれば、それぞれの窯焚きがどのような人物であったかを導き出せるというわけである。いずれにしても現場が多くなると語りかけてくることは非常に楽しくもあり、私にとって魅力的である。



宅間窯の初釜でやかれたもの

重松 佳子

直方市のシンボル福智山をはじめ、鷹取山、雲取山等々の山懐に抱かれたここ直方市頓野内ヶ磯の古窯跡は、福地川の二ノ瀬溪谷、鷹取山の北側斜面に位置し、標高一五〇米の所にあります。「茶碗が欲しくば、山に行つて掘つて来い」といつていたと古老達が云うそれ程、陶器類が埋もれていたのです。茶陶で名高い高取焼初期の窯跡です。

この一帯は旧豊前国と旧筑前国との境界線にあたり、古くから修験道の研鑽場として開かれ、中世には山城等も築かれていた場所、特に戦国期には重要な戦略的要衝でした。

この窯は、文禄・慶長の役で、黒田長政公が朝鮮より陶工八山（日本名高取八蔵）を連れ帰り、この地点に窯を構築して領主の保護のもと、藩窯として陶器の製造に当らせるためのものであったといわれています。



発掘調査現場にて

しかし、陶器の製造は必ずしも順調に進行したわけではなく、元和九年（一六二二）、長政没して翌寛永元年、八蔵の長男、八郎右衛門は忘郷の念はなはだしく、二代藩主黒田忠之公に帰国を願い出たことよって、勘気をこうむり、禄を召し上げられ、八蔵一家は嘉麻郡山田村唐人谷に塾居を命じられました。

この間十年余、彼は内ヶ磯高取窯としての火を燃やし続けました。直方市では近年、福智山水資源開発と貯水を兼ねた多目的ダムの建設が計画され、そのため、この内ヶ磯窯跡は水没の憂目に会うとか、

貴重な遺跡を残念でなりません。直方市では昭和五十四年から三年計画で、国県の補助事業として、この文化財の緊急発掘調査にあたることとなりました。

市がこの古窯跡を一般公開したのは昭和五十五年師走を目前にした初冬の事でした。

私は主人を誘つて見学に出かけ、内ヶ磯より溪谷に沿って雨上りの細い山路を登って行きました。やがて杉林にさしかかりましたが、その右手の一部分が伐採されており、開かれた斜面には階段式連房の見事な古窯跡を見ることができました。

掘り起された山の赤土に靴を汚しながら北側より南側の窯尻の方へと登り、焚口と思われる室の方を見下せば、やや逆S字状に蛇行し、全長四十五メートル、焚口を含めて十五室はあろうかと思える長大なもので、今は無いかまぼこ形をした半月の屋根の土が目に見えぶようでした。

この窯跡に見られる窯の様式を連房式登窯といい、中国の宋代にはじまり、朝鮮半島を経て、十六世紀から十七世紀にかけて日本に伝えられたものと云われています。

傾斜地に数室あるいは、十数室連続して築き、最下部の第一室は火入れをする室で「焚き起こし」とよんで、第二室「胴木間」、第三室「捨て間」と称し、製品は第四室から焼成される窯が多いと聞きます。

各焼成室の外形は「かまぼこ形」あるいは「まんじゅう形」を呈し、火は先ず「焚き起こし」で燃やされて、第二室から第三室へと次第に昇つてゆくようになっていきます。各室の前面壁下部には横に「温座」と称する孔が並んでおり、火は「温座」を抜けて下室から入り、天井内部の湾曲に沿つて室の後側



発掘調査時の窯跡。ややS字状に蛇行している。

に廻り、次の一段高い室へ「温座」から昇り抜けてゆく構造になっています。

各室の両側手前には「差木孔」があり、ここから薪を投げ入れ、最後の最も高い位置にある室まで昇った火は室の背面の煙出し孔から外に吹き出す構造となっており、す。

私はこの古窯跡を登りながら、東側の、多分選別場の跡であろうと思われる場所で見た美しい織部好みの茶碗が裏返しのまま無残に土に埋れていながら、その色彩の見事さは今でも忘れることができません。



発掘現場

市が堀り出した出土遺物は、全部で土囊の一〇〇〇袋分もあり、そのうち、遠州好みの茶入や献上品等、焚口近くから堀り出されたものと聞きます。また、置台には、福地川の清流のしじみ貝をした物がはつきり見え、茶碗の割高台に「王」「八」の字の書かれたものもありました。完全に復元できたものは数点に留っていますが、数々の破片を眺めながら、さぞや見事な作品が数限りなく焼上げられたであろうと想像され、同時に八山をはじめ陶工達の技工の素晴らしさに感動させられました。

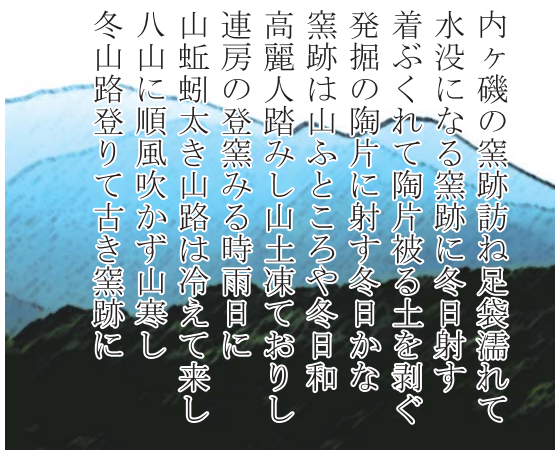
この内ヶ磯窯をはじめ、近世諸窯の多くは朝鮮半島李朝系の陶技が、李朝系の陶工達によって招来されたもので、今更ながら我が国は、その技術を仰ぐことの大きかった事を感じさせられます。

私は、この古窯跡に美しく残った障子作りの温座を眺めながら、望郷の念に燃えつつ、ひたすら焼物を作り続けた彼等陶工達の、指痕の残っている窯や陶器に秘められた歴史を、じつと三五〇年間もの間見守ってきた、福智、鷹取、雲取の連山、そして四季それぞれの風情を呈し続けてきた福地川の

渓谷は、何を奏で続け、語り続けてきたのだろうか、と感無量なるものを覚ええました。

しばし、彼等陶工達に思いをはせつつ、この古窯跡に別れを告げることになりました。折しも一群の山霧が谷間から上空に立ち登り、恰も三五〇年前、陶工達の種々の感慨を込めて立ち登った陶煙を見る思いで、空を仰ぎ見たまま立ちすくんでいました。

今日の想い出を拙句にまとめてみました。



直方の宝『古高取』

各地の美術館・博物館に收藏されています

- 東京国立博物館(東京都台東区)
- 京都国立博物館(京都市東山区)
- 福岡市美術館(福岡市中央区)
- 永青文庫美術館(東京都文京区)
- 畠山記念館(東京都港区)
- 根津美術館(東京都港区)
- 秋月美術館(福岡県朝倉市)
- 福岡県立美術館(福岡市中央区)
- 梅沢記念館(東京都千代田区)
- MOA美術館(静岡県熱海市)
- 出光美術館(北九州市門司区)
- 石橋美術館(福岡県久留米市)
- 九州国立博物館(福岡県太宰府市)
- 唐九郎記念館(愛知県名古屋市中区)
- 佐賀県立九州陶磁文化館(佐賀県西有田町)
- 林原美術館(岡山県岡山市)
- 福岡東洋陶磁美術館(福岡市城南区)

機会があればのぞいてみませんか。

(これは一例です。情報をお寄せください。)

活動の記録

● 子供焼物教室

△平成二十一年五月～十二月
場所…直方東小学校、直方西小学校、直方南小学校、直方北小学校、中泉小学校、下境小学校、新入小学校、植木小学校、感田小学校、福地小学校、上頓野小学校



古高取の説明を熱心に聞く生徒たち

校は日曜参観を兼ねて実施しましたので保護者にもパンフレットを配り、「古高取を伝える会」を知ってもらい大きなチャンスとなりました。

それから3校ほどプロジェクトを使用しして授業を行ったところもありました。福地小学校では担任の先生が我々の会の会員で、子供達が大壁新聞を作り高取焼のことを詳しく書いて教室に貼ってあり、とても感心しました。

お茶わん作りに関しても、とてもいい作品が出来上がっていて、各学校に夏休みの間持って行きました。

植木小学校で子供たちが「古高取の伝承と直方で初めて焼かれたことを誇りに思います」と言う感想を聞きスタツプ一同とても感動しました。後日お茶会を開催する学校もありぜひ参加したいと思っております。

● バス見学会

「古高取を訪ねる」 (秋月美術館)

△平成二十一年六月二十七日(土)
場所…秋月美術館(朝倉市)
費用…5000円(昼食代・入館料を含む)

本年度のテーマ「古高取に関する基礎的な知識を深める」の一環として、朝倉市の秋月美術館に学習部会長の副島邦弘氏を講師に迎え、内ヶ磯窯開窯以前の社会状況並びに展示品の「古高取」について解説を受けました。

当時の政治や経済に対する幅

広い知識が「古高取」の理解に必要だと改めて認識させられた一日でした。

● 高取焼基礎研修講座 「第一回」

△平成二十一年七月十八日(土)
場所…直方中央公民館 三階 第三学習室
費用…無料(ただし一般参加の方は、4回分の資料代1000円)



講座では文献史料と現物(陶片)を見せながら、よりよく古高取が理解できる様に行っている。

基礎的な講義であるため、「文禄・慶長の役」を中心として、それ以前と以後とを政治権力と商人達(堺・博多・京)のつながりを、やきものを通して、茶の湯を媒介とする動きを導き出したい。これに内ヶ磯窯跡の製品のあり方を織部から遠州への変化と

京好きをあきらかにしている。

● 移動知事室

△平成二十一年八月十日(月)
場所…ユメニティのおがた会議室
出席…永富セツ子



移動知事室は、知事が県民と直接ふれあい意見交換して、県政に反映させようというもので、今回は、直方において実施されました。

直方からは、古高取を伝える会、六ヶ岳米生産組合、楠木酪農生産組合、のおがた子育てネットワーク「すくすく」、のおがた女性ネットワーク「夢ネット」の五団体が参加して活動報告をし、知事との意見交換をしました。短い時間の中で我々の会の成り立ちから目的、活動内容、昨年の実績、そして今一番望むことの高取焼の資料館を作りたいことを報告しました。

意見交換時にできれば資料館を県の方で作ってもらいたいと要望しました。また終了後、会の古高取通信とパンフレットを持って帰っていただき、しっかりと宣伝して参りました。

● 高取焼基礎研修講座 「第二回」

△平成二十一年八月二十二日(土)
場所…直方中央公民館 三階 第三学習室
費用…無料(ただし、一般参加の方は、4回分の資料代1000円)

多数のご参加ありがとうございました。今後も第三回、第四回、総括研修と続きます。新しい見解なども交えて進めて行きたいと思っておりますので、引き続き皆様のご参加を宜しくお願い致します。楽しく学んで行きましょう。



●福岡県公平委員会連合会「総会」

△平成二十一年八月二十八日(金) 場所…いこいの村

総会は、福岡県各地から、約130名の参加で開催されました。

高取八山と宅間窯、内ヶ磯窯の概略、織部好みの沓茶碗と、窯跡の発掘調査により発見された古高取の魅力、さらに、高取焼開窯400年祭の取り組みから、会の発足に至る経緯について語ってきました。

能間 瀧次

●地域対象焼物教室 上境地域活動 「おしゃべり喫茶」

△平成二十一年八月三十日(日) 場所…永満寺公民館

参加者…42名(子供2名)

サロン「おしゃべり喫茶」は高齢者が月1回サロンに集い、体操したり、歌ったり、ゲームしたり、食事をしたりして楽しんでいらつしやるそうで、今回は焼物教室で、古高取の話やお茶わん作りをして、とてもなごやかな様子でした。

特に古高取の話では、地元だけに熱心に皆さん聞き入って、うなづいたり、資料にしつかり目を通していらつしやりました。70才代から80才代の高齢者とのことでしたが、とても若く男性も6名ほどみえてました。お茶わんの作品も、初めての経験とおつしやる方が多い割にはりっぱなものが出来上がってお

り、楽しかったと喜んでおられました。

サロンの主宰大坪さんは「お茶会をぜひしたい、そして来年度も古高取の話をもっと聞きたいのでまた企画させてほしい」と言われ、会にとってもうれしい要望でした。

終了後、皆さんといつしよにカレーをいただき、わきあいあいと楽しく交流して帰りました。他の地域でもこのような焼物教室ができたらいいなとスタッフで話し合いました。



●広報部会

△平成二十一年九月五日(土) 場所…事務局

古高取の魅力をどうやったら幅広く伝えることができるか? など話し合いました。益々活動が楽しみになってきました。

その他、「古高取の標識」を制作するため頑張っていますので、

アイデアなどのある方は、ぜひ広報部会にご参加ください!

なんでも掲示板

●ぶらり窯紀行

六月六日(土)の読売新聞に「ぶらり窯紀行」と言う記事が掲載されました。そこで最初に「高取焼」の窯が紹介されました。連載になりそうな感じですが、今後、更にいろいろな場面で古高取や高取焼が紹介され直方も注目されるようになれば嬉しいと思います。

●古高取が面白くなってきた

山本 康雄

福岡市で今年6月にあつた「左官礼賛II」の出版記念会で、別府市在住の旧知の写真家藤田洋三さんから、陶芸家小山巨さんを紹介された。小山さんは、その記念会の片隅で織部調の沓茶碗で抹茶を点て、古高取のパネルを用意して茶陶古高取の解説をしていた。

焼物に関心を持つ私は、直方市にこんな陶芸家があったのかと興味を俄然わいた。抹茶もうまかったが、古高取の話が面白い。「内ヶ磯窯の沓茶碗は、京都三条の瀬戸物屋町の陶工がやっけて来て焼いたに違いない」と聞いて驚いた。小山さんは地元出身ではない。東京生まれで、備前、瀬戸、志野など著名な陶芸家を訪ねて、茶陶への知見を広げている。「備前、伊賀などの古窯の陶技が内ヶ磯古窯にも入り込

んでいる」と作陶する側から見ている。

小山さんがそうした古高取の名品を生んだ内ヶ磯窯に惹かれて直方市に移り住み、新たなユニークな見方をするの、彼の来歴を聞いて、所謂「よそ者」の眼から見て、「そういう事になるのか」と、古高取の新たな展開に納得した。

新聞記者だった私は、高取焼について、高取静山がまとめた『高取家文書』を拾い読みし、福岡藩が窯を永満寺宅間から内ヶ磯、白旗山、小石原、大鋸谷、西新へと転々と移した歴史があり、それを23、4年前『筑前流転の焼物』として西日本新聞で紹介したことがある。福岡市美術館で4年前、大名茶陶高取焼展を見て、これまでの私の高取焼の眼は朝鮮渡来陶工八山(高取八蔵)一色の歴史観に染め抜かれていた。古高取を伝える会に入会し、小山さんの解説を聞いて古高取の世界が面白くなってきた。

●古高取基礎講座を受講して

中村 裕子

七月から毎月一度、大分県から片道約二時間、車を運転して直方までやってくる。古高取にはかなり前から興味を持っていました。だから「古高取基礎講座」が始まると聞いて、往復四時間もかけて、専門誌や企画展の図録ですでに得ている知識を再学習することは無駄なことだと思っていた。それでも、今まで公開されていない発掘陶片が見られると聞き、その為に参加した。新

解釈を織り交ぜた明らかに今までと異なる古高取の捉え方に、いささか面食らいつつも、次第に興味が膨らんでいった。

三回の受講を終えた今では、単なる二時間の車移動が講座の予復習をする時間に変わり、陶片が出てくるまでのおまけと思っていた講座も、次回が待ち遠しく感じるほどになった。

講師である小山氏は、古高取の窯に関わり、実際に轆轤を挽き、窯を焚いていた陶工達を深く掘り下げ、製品ごとに個人を特定できるまでに至った緻密な考察と、発掘陶片・伝世品などを基に検証し、内ヶ磯窯の焼成の実際について、できる限り忠実に古高取を復元することで、古高取の解明を進めている。これにより、内ヶ磯窯が一大名の御用窯にとどまらない、桃山茶陶における秀吉・織部の茶の湯の極致としてその存在がいかに大きく、華々しいものだったかを浮かび上がらせた。





のおがた須崎町公園ステージの様

●須崎町公園ステージにて
パネル展示

和の美の一つの頂に達した「古高取」を生んだ陶工たちの、世界に誇れる輝かしい痕跡は「古高取を伝える会」発足以前までの情報に加え、これから研究し、再構築した成果により、さらにその輪郭をはっきり現していくことだろう。

この活動の広がりによって、桃山茶陶研究の最先端が直方にあるということも全国にアピールできれば、論文や発掘・伝世品などの検証の為の資料も集まり、活発に情報・意見交換が行われ、研究の精度も上がることとなる。

未だ謎の多い「古高取」の本当の姿が明らかになっていくのを、これからも楽しみに、刮目して見守りたい。

八月二十九日(土)と三十日(日)に直方市須崎町公園で行われた「須崎町公園ステージ(野外イ」

月一度ですが、地域の方の、要望を取入れて、健康体操、料理教室、手芸、麻雀、花公園へウォーキング等々楽しくやっています。

陶芸教室は、地域の方々にとつて、とても興味があった様です。多数の方が参加され、嬉しいことに、男性の参加も多くなりました。

今回の教室で、高取焼が、どんなに素晴らしく、歴史あるものかと言ったことを知りました。高取焼について、もっと知りたいと言った声が多く、次回は、その歴史について、お話を聞かせ頂きたいと思えます。

●地域ふれ合いサロン
「おしゃべり喫茶」
大坪 喜代美

福智小学校の子供達が、卒業記念に、お抹茶茶碗を造りました。その器を使つて、「お抹茶を点てて飲んでみたい」という要望があり、そのお手伝いをした時、子供達の作ったお茶碗がとても素晴らしく、私達も是非作ってみたい、ということ、今回「古高取を伝える会」の方にご指導いただきました。

少子高齢化の地域で、お互いが助け合い、日常生活での見守りが、声かけ、そんな人の輪が広がれば良いな、とお願いを込め、平成16年4月から地域ふれ合いサロン「おしゃべり喫茶」をしていきます。

ペント)で、古高取のパネルが展示されました。このように、いろいろな場所で「古高取」が紹介され、より多くの人に知ってもらえることを嬉しく思います。

●子供焼物教室に参加して
直方南小学校 安藤 順子

今日は子ども達と共に楽しい時間を過ごさせて頂き、本当にありがとうございます。

私自身、直方で生まれ育ち、これまで過ごしてきましたが古高取の歴史について初めて耳にすることができました。

教師となつて二十数年、この直方が大好きで誇りに思えるが、私も自身がこの直方を本当に誇りに思っていたか、それを伝えることができていたか、と問われるとまったく自信がありません。



「おしゃべり喫茶」で茶碗づくりを体験中

知る事に依つて、郷土や自分の作った器にも一層愛着がわくものと思われれます。

出来上がりがとても楽しみます。その時は、それぞれの器を使つてお茶会をする予定です。「古高取を伝える会」の方々に出会えた事深く感謝致します。ありがとうございます。

〈掲載内容募集〉

「古高取」の魅力を発信するためのイベント情報など募集しています。掲載可能な情報等がございましたら、事務局までご連絡ください。



茶碗づくりを体験する直方南小学校の子ども達

教師として、そして直方に住む一人として少し直方の歴史、文化について調べてみようかと思ひなしております。

又、今日は日頃の教室とは違った子ども達の真剣に話を聞く姿、楽しんで制作する姿を見ることができました。

きつと子ども達の心の中にも今日の貴重な体験は深く残るものと思います。

三学期には出来上がった茶碗でお茶会を開き、子ども達とお茶を飲んでみようと思っております。

本当にありがとうございます。深く感謝致します。

小山先生が説明してくれて、とても分かりやすかったです。いいことを勉強できました。ありがとうございます。

このことをまた知らない人がいるのでこのことをたくさんの人に伝えて、知ってもらいたいと思います。

ありがとうございました。

いっしょに中絶して下さってありがとうございました。

中村 真衣子

古高取焼のみなさんへ
今日は焼物のことをたくさん教えて下さり、ありがとうございました。

これまでも直方で焼物を作られていたことを初めて知りました。

びっくりしました。お茶わんを作るときもいろいろな直方と、たんとおしえてもらって、すごくきれいに作ることが出来ました。

ほんとうにありがとうございました。

直方にも昔はすばらしいものがあったんだなあと感じました。

焼物教室に参加した子ども達から感想文をいただきました。みんなとても嬉しく思っています。少しだけですが、ご紹介させていただきます。ありがとうございます。

直方南小学校6年 中村 真衣子

